

2011年度の検査室は、病院の大きな事業である機能評価受審に関わる臨床検査の総点検から始めた。

健診センターの立ち上げによる検査業務の構築も重要であった。

診療科の新規開設もあり、C-Pap 解析も導入した。

また、スタッフの業務にかたよりがでないよう支援を行いながら、病棟回診参加や適正な代休取得に努めた。

リスク管理の点からも、毎朝の部署内朝礼を行い、リアルタイムの情報伝達と共有及び問題解決の場とした。その他、技師養成校から3名の実習生を受け入れた。

【検体検査】

電子カルテ導入後2年が経過し、輸血・細菌・病理の各システム構築と習熟が進んだ。検体システムのバージョンアップが行われ機器入れ替えも順調に終わることができた。引き続きシステムと運用の改善に取り組んでいきたい。

免疫血清分析装置は、導入の意義があると考えるが整備に至っていない。

回診業務に関しては、NST、褥瘡及び ICT に常時1名が参加、情報提供を行っている。

【生理検査】

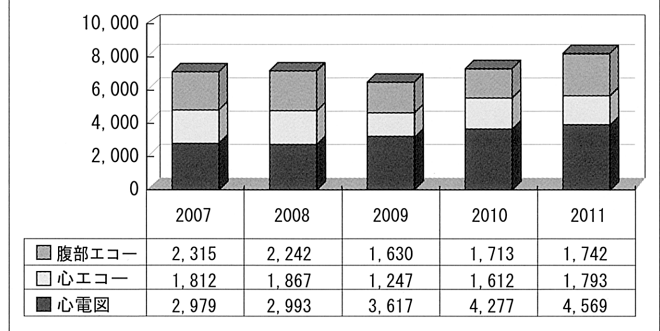
健診受診者の増加も予想され、超音波検査を担当する技師を増やすために、前年度から引き続き研鑽に励み、全スタッフが日常業務を担当できるように研修を行っている。

超音波下穿刺や生検介助も今後も積極的に行っていききたい。2011年度は、超音波検査士（血管領域、体表領域）各1名が合格した。

【今後の展望】

超音波検査技術は、すぐに習得できるものではないが、生理検査担当者も時間外業務帯を対応できるように順次研修を行い、検査室全体とのカバーリング体制を構築して行きたい。今後も治療に必要な正確な検査結果を迅速に提供していききたい。また2012年に新しく診療保険点数が新設される検査の導入も検討していききたい。

主な生理検査年度別推移



主な検体検査年度別推移

